資料 10

「子ども・若者の権利の観点」から評価・検証するテーマ（施策・事業）等について

【事務局案Ⅰ】事業改善に重きを置く方式

重点的な取組①～⑦に含まれる施策・事業のうち、子ども・若者の評価を受ける事業の希望を各課に確認し、具体的な事業とその聞きたいことをテーマとする。

評価・検証の方法

1つの事業に対して、主管課の自己評価と子どもの評価（改善点、その他各課が子どもに聞いてやっていきたいことを聞き、どのように反映するかまでまとめる）を確認した上で、専門部会が評価する。

▲懸念点

・過去の事業評価という視点が薄くなるので、施策の評価・検証ではなくなる可能性がある。
・「子どもの声を聞いて、これから改善していく」視点が強い

◎良い点：

・事業担当課が聞きたいこと、かつ具体的な内容なので、参加者にとっては内容がわかりやすく、それに興味のある子どもが応募してくれる。
・事業担当課の協力を得られやすい。
・意見の反映先が明確

【事務局案2】評価に重きを置く方式

重点的な取組を大きなテーマに分け、子どもの権利との関連が特に深く、子ども本人の実感を確認する必要性が高く、改善につなげやすい３つのテーマを重点的に評価する。

評価・検証の方法

大きく３つにテーマ分けし、そのテーマに対応する事業の中から、専門部会において「子どもが話しやすいテーマ」をピックアップしてもらい、その事業について子どもの意見を聞く。

テーマ①：意見表明・参加（意見表明＋子ども参画＋まちづくり）
ワイワイトーク、子ども版総合計画授業、中高生プロジェクト、
中高生特化型児童館ワークショップ、公園リニューアル意見反映、CATCH 共同編集、U29 チャレンジ、防災講座（中高生企画）、文化イベントアンケート、児童館行事の子ども意見反映 など

テーマ②：安心して過ごせる居場所・環境（居場所＋地域行事）
児童館機能の充実、中高生特化型児童館、公園リニューアル、
公共施設、地域行事（市民まつり、文化祭、スポーツまつり）など

テーマ③：相談しやすさ（子ども相談＋若者相談）
ほっとルーム・LINE 相談、若者向け相談、ヤングケアラー支援、
学校相談 など

▲懸念点

・評価に当たって、庁内自己評価表とは別に、テーマ別に事業を再分類した「対応表」を作成する必要がある。
・多くの事業から子どもに聞く事業をピックアップすることが可能か不明
・担当課を指名する形になるので、事業担当課と説明～意見反映まで個別に調整する必要がある。

◎良い点：

・重点的な取組①～⑦の１つ１つを評価する必要がなくなり、評価・検証の量を減らすことができる。

【事務局案3】子どもの意見の聞きやすさに重きを置く方式

重点的な取組を大きなテーマに分け、そのテーマの中から子どもの権利との関連が特に深く、子どもが意見を言いやすいテーマを１つ専門部会でピックアップしてもらう。

評価・検証の方法

大きく３つにテーマ分けし、そのテーマの中から子どもの権利との関連が特に深く、子どもが意見を言いやすいテーマを１つ専門部会でピックアップしてもらい、その広いテーマの中で子どもたちの意見を聞き、聞いた意見をテーマに紐づく各事業に後から当てはめて評価する。

テーマ①：意見表明・参加（意見表明＋子ども参画＋まちづくり）
子どもへの聞き方
・「自分が参加してみたいまちづくりイベントについて」
・「自分が意見を言いたいことについて」

テーマ②：安心して過ごせる居場所・環境（居場所＋地域行事）
子どもへの聞き方
・「自分が求めている居場所について」
・「自分が地域の行事に参加しやすく
・「勉強しやすい環境、場所について」

テーマ③：相談しやすさ（子ども相談＋若者相談）
子どもへの聞き方
・「困ったときに相談できる場所はどんなところか」
・「何か話したいとき、家以外にどんな場所がほしいか」

▲懸念点

・子どもへの聞き方が幅広く、ひとり一人が自由に発言することになるので、事前に事業の説明を事前にできない。
・子どもの意見を聞いてから、反映先の担当課を指名する形になるので、意見反映が可能か不明。
・意見をもらった後に、担当課を割り振るので、場合によっては、意見をもらった担当課と参加者が話す機会を再度設ける必要がある。（３Days で終わらない。）
・評価の視点が薄くなる。

◎良い点：

・子どもが自由に発言できるので、参加意欲が高まる。
・最初に縛りがないので、想定していなかった新しい改善策の意見をもらえる可能性がある。